

福島県飯館村の原発避難村民の生活実態と生活再建意向
 ～福島県福島市松川町の仮設住宅に避難している村民の事例調査～

The current status of refuge life and intention to rehabilitate livelihood of Iitate villagers after the Accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station.

- A case study of refugees living in temporary housings in Matsukawa Town, Fukushima -

遠藤 貴大*・川崎 興太**
 Takahiro Endo*・Kota Kawasaki**

This study discusses the current status of refuge life and intention to rehabilitate livelihood of Iitate villagers who live in temporary housings in Matsukawa Town of Fukushima City after the accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station.

We conclude that Iitate villagers endure hard life and live with a sense of anxiety in temporary housings, and we identify (1) the necessity to expand support measures for improvement of refuge life, (2) the necessity to enable them to easily judge the possibility or timing for returning home, and (3) the necessity to make opportunities to adequately exchange opinions between villagers, officers of Iitate Village and the national government, and officers of Tokyo Electric Power Company.

Keywords: Iitate Village, Revitalization plan, Decontamination, Temporary housing, Fukushima nuclear power station accident
 飯館村、復興計画、除染、仮設住宅、福島第一原子力発電所事故

1. はじめに

1-1. 研究の背景

2011 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災による福島第一原子力発電所事故の放射性物質の放出によって、福島県飯館村は全村避難の状況が未だに続いている。行政の復興方針と村民の意思にズレがないように、現在の避難実態を把握するべきである。

1-2. 研究の目的

本研究は、福島県福島市松川町の仮設住宅に避難している飯館村の村民を対象として、避難生活の実態および生活再建に向けた意向を把握し、福島第一原発事故後の復興のあり方を検討する上での基礎資料を得ることを目的とするものである。

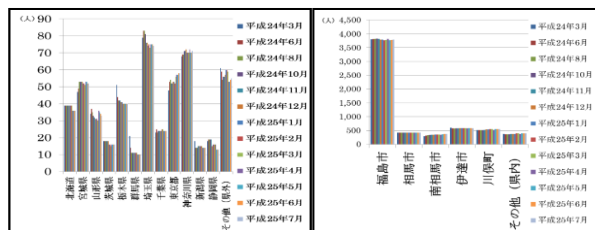
2. 飯館村の概要

2-1. 福島原発事故前の飯館村

飯館村は、阿武隈山系北部の高原に開けた豊かな自然に恵まれた美しい村である。産業では、村の自然を生かした農業が盛んである。平成 23 年 3 月 1 日現在の人口は 6132 人、世帯数は 1716 世帯であった。

2-2. 福島原発事故後の飯館村

飯館村は、東京電力福島第一原子力発電所から北西約 30~45km の間に位置し、村の南東の一部である蕨平は 30 km 圏内である。



【図-1】 県外・県内避難者の推移（各月 1 日現在）

資料：飯館村—震災以降の飯館村を伝える情報サイト—

施設名	避難者数	避難戸数
伊達東仮設住宅	148	91
旧飯館小仮設住宅	72	32
旧明治小仮設住宅	53	26
国見・大木戸仮設住宅	17	8
国見・上野台仮設住宅	43	23
松川仮設第一住宅	204	112
松川仮設第二住宅	210	107
旧松川小仮設住宅	95	39
相馬市大野台第 6 仮設住宅	332	162
仮設合計	1174	600

【図-2】 県内施設別避難者数（2013 年 9 月 1 日現在）

資料：飯館村—震災以降の飯館村を伝える情報サイト—
 飯館村は行政区域の全域が計画的避難区域に指定された自治体であり、双葉郡の町村とは避難の経緯が異なる。また、避難にあたっては村長が村から 1 時間圏内の場所への避難を基本的な方針としたことが県内、特に福島市に避難が集中した理由であると考えられる。

避難前の飯館村では、3 世代または 4 世代同居も珍しくはなかったが、福島原発事故後の避難で同じ世帯の中で若い世代が、子どもの被ばくリスクなどを考えて、先に民間アパート（借り上げ住宅）などを自力で探し避難したケースが多く、親世代は仮設住宅が完成してからそっちに移るといった世帯分断が起きたとされている。また、借り上げ仮設のアパートは 3 世代同居には狭く、高齢の親が仮設に住むといったケースや、避難先で同居しても、家族がいなくなる日中の隣人なき孤独に耐えられず、同世代の入居者が多いと聞いて仮設にしたなどのケースがある。こうしたことから、仮設住宅は夫婦 2 人または単身の高齢者が中心となっている。

3. 復興計画と除染

3-1. 復興計画の概要

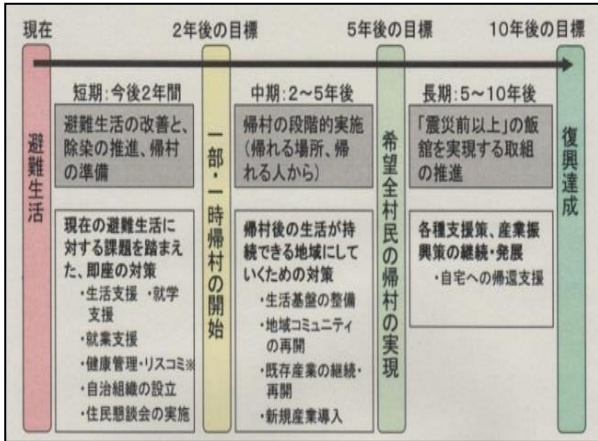
飯館村では、国による除染を前提として、村内で生活と仕事を

* 非会員 渡辺パイプ株式会社 (Watanabe Pipe Co., Ltd.)

** 正会員 福島大学共生システム理工学類 (Faculty of Symbiotic Systems Science, Fukushima University)

再開できるように準備を進めており、安全や安心が確保され、生活のための環境が整った段階で帰村宣言を行うものとしている。

「いいいてまでいな復興計画 第1版」では、下の図の様な復興の大まかな流れを示している。しかし、村民は現在、個々で暮らしている環境が違う。借り上げ住宅や公的宿舎、借り上げ住宅などバラバラな環境で暮らしているし、県外や県内でも帰村に対する考え方が違ってくる。



【図-3】復興の短期・中期・長期の目標

出典：いいいてまでいな復興計画 第1版（平成23年12月16日）

3-2. 除染の現状

飯館村は、国が除染を行う除染特別地域に指定されている。環境省は、平成24年1月26日に公表した「除染特別地域における除染の方針」において、除染特別地域のうち、避難指示解除準備区域と居住制限区域については、平成26年3月末までに除染を行い、除去土壌等を仮置き場へ搬入することを目指すものとした。しかし、避難指示区域の見直しや仮置き場の確保が遅れたことなどにより、平成25年12月26日に予定を変更し、飯館村の場合は平成28年内までに完了するという計画の延長を行った。こうした除染の遅れは、村の復興全体に影響が出ると考えられる。

4. 村民の避難生活の実態と生活再建の意向

4.1. アンケート調査とヒアリング調査の概要

松川第一仮設住宅と松川第二仮設住宅は、飯館村から避難した村民が生活している福島市松川町にある仮設住宅である。どちらも松川工業団地に立地している。平成25年12月1日現在で松川第一仮設住宅は世帯数が112世帯で人数が202人、松川第二仮設住宅は世帯数が107世帯で人数が210人で、世帯数の合計は219世帯、人数の合計は412人である。どちらの仮設住宅も住民の大半が高齢者であり、平均年齢は70歳以上となっている。

この219世帯の世帯主に対し、【表-2】に掲げる通り、アンケート調査を実施した。また、アンケート調査の配布・回収期間の前後に、居住者に対してヒアリング調査を実施した。

【表-1】松川第一・第二仮設住宅の人数と世帯数（H25.12.1現在）

	避難人数	避難世帯
松川第一仮設住宅	202	112
松川第二仮設住宅	210	107

【表-2】アンケート調査の概要

調査の名前	松川第一・第二仮設住宅の生活実態と帰村意向調査アンケート
調査目的	松川第一・第二仮設住宅に避難している村民を対象として、避難生活の実態および生活再建に向けた意向を把握し、福島第一原発事故後の復興のあり方を検討する上での基礎資料を得ること
調査対象	松川第一・第二仮設住宅に住んでいる世帯の世帯主
調査方法	各世帯にアンケート調査票を一部ずつ訪問配布。直接渡せなかったところはポスト投函。回収箱による回収（各仮設住宅の集会所にアンケート回収箱を設置）。
調査期間	平成25年12月4日～12月16日
配布数	219世帯
有効回収数	66世帯
有効回収率	30.1%

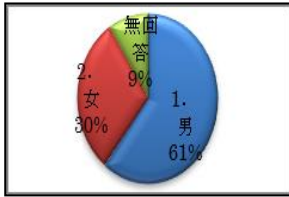
【表-3】アンケートの設問の内容と回答者の母数

設問	内容	回答母数
設問1-1	性別	回答者全員 n=66
設問1-2	年齢	回答者全員 n=66
設問1-3	世帯構成	回答者全員 n=66
設問2-1	避難前の職業	回答者全員 n=66
設問2-2	現在の収入での暮らし向き	回答者全員 n=66
設問3-1	仮設住宅の評価	回答者全員 n=66
設問3-2	住環境の評価	回答者全員 n=66
設問4-1	帰村意向	回答者全員 n=66
設問4-2	戻りたいと考えている人が求めている行政の支援（複数回答）	設問4-1で「1. 戻りたい」と考えている人 n=21
設問4-3	帰村後の農業再開意向	設問4-1で「1. 戻りたい」と考えている人 n=14
設問4-4	村内で農業を再開する際の課題（複数回答）	設問4-1で「1. 戻りたい」と考えている人 n=5
設問4-5	村内で農業の再開を判断できない、または、再開するつもりはない理由（複数回答）	設問4-1で「1. 戻りたい」と考えている人 n=6
設問4-6	帰村を判断する上で必要な情報（複数回答）	設問4-1で「2. 戻りたい」と考えている人 n=30
設問4-7	村に戻らないと決めた理由（複数回答）	設問4-1で「4. 戻らないと決めている」人 n=10
設問4-8	今後の居住希望地	設問4-1で「4. 戻らないと決めている」人 n=10
設問5-1	村の復興計画を知っているかどうか	回答者全員 n=66
設問5-2	飯館村に対する村や県、国、東電の取り組みの評価	回答者全員 n=66
設問5-3	村や国が最も力を入れるべき支援	回答者全員 n=66

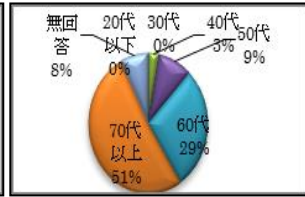


【写真-1】松川第二仮設住宅に避難している村民

4-2. アンケート調査とヒアリング調査の結果



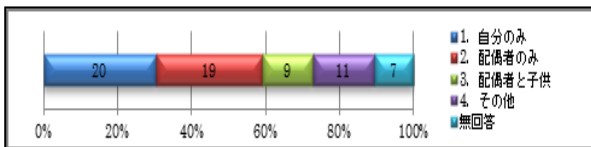
【図-4】 設問 1-1



【図-5】 設問 1-2

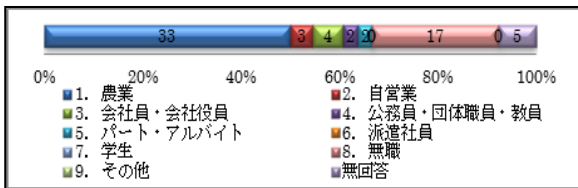
設問 1-1 によると、アンケートを回答した人の性別は男性の方が多い。

設問 1-2 によると、年齢は、70 代以上の人々が半数を占めており、60 代と合わせると 80% を占めているので、本研究のアンケートは男性の高齢者が主体の結果であると言える。



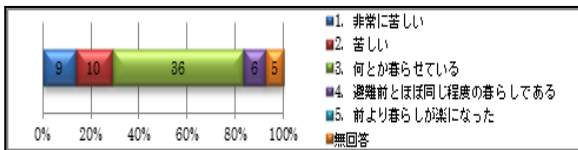
【図-6】 設問 1-3

設問 1-3 によると、単身と夫婦のみの世帯が半数以上を占めていることが分かる。「その他」には、「自分と配偶者と親と子供」「自分と配偶者と親」「自分と両親」「自分と母」「自分と配偶者と母」「自分と子供」「自分と配偶者と子供と母」といった様々な世帯構成が含まれる。



【図-7】 設問 2-1

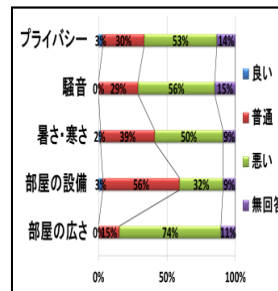
避難前の職業としては、農業をしていた人が半数を占めている。また、無職だった人も農業の次に割合が高い。ヒアリング調査では、無職の人の中には農業を手伝っていた人もいたとわかった。



【図-8】 設問 2-2

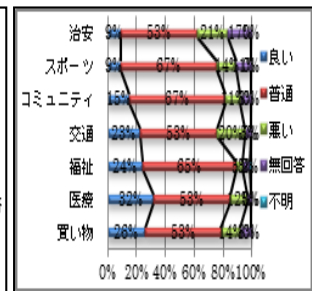
設問 2-2 によると、暮らし向きは、「何とか暮らせている」が半数以上を占めていることが分かる。仮設住宅の生活環境が飯館村で暮らしていた時とは大きく違ったものになってしまっていることが大きな原因であると考えられる。中でも、農業による収入が無いことや、ガス・電気・水道の利用料金が村で生活していた時よりも多くなってしまうことが大きな原因であると考えられる。また、仮設住宅内でのご近所付き合いによる交際費も出費の多くを占めるということもヒアリング調査を通して判明した。

設問 3-1 の仮設住宅に関する評価は、全体的に悪い。松川第二仮設住宅には、木造の仮設住宅が 8~10 戸と少数ではあるが建っているが、松川第一仮設住宅と松川第二仮設住宅の殆どはプレハブ式で壁が薄く耐久性に欠けるものとなっている。そのため、



【図-9】 設問 3-1

外部の温度に影響されやすい。また、壁が薄いことで、車の騒音が気になってしまうことや、自分の部屋の物音が隣人の部屋に聞こえてしまうかもしれないという心配は、仮設住宅に住む人にとってストレスになっているようにも思える。また中でも、「部屋の広さ」は最も評価が低い。村にいたころは 2~4 世帯が住めるほどの軒家が殆どであったので、以前生活していた村にある広い家に慣れている村民からすると、仮設住宅の狭さにはかなり抵抗があるのではないだろうか。設問 3-2 の仮設住宅の住環境に対する評価は、全体的に「普通」となった。この中で最も評価が良いのが医療環境である。仮設住宅から週 3~4 回ほど総合病院行きのバスが出ていることが評価されたと考えられる。福祉環境も、松川第一仮設住宅に介護福祉施設があり、近くで利用しやすいことが評価されていると考えられる。

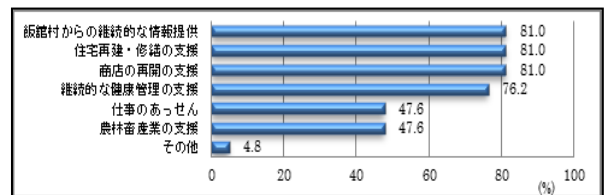


【図-10】 設問 3-2



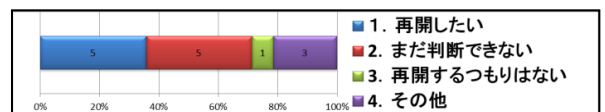
【図-11】 設問 4-1

設問 4-1 によると、「戻りたいと考えている」と「戻りたいと考えているが判断がつかない」がそれぞれ約 30%、「わからない」と「戻らないと決めている」がそれぞれ約 10%である。判断がつかない人やわからないという人が半数程度を占めているが、戻らないと思っている人よりは、戻りたいと思っている人の多いことが分かる。



【図-12】 設問 4-2

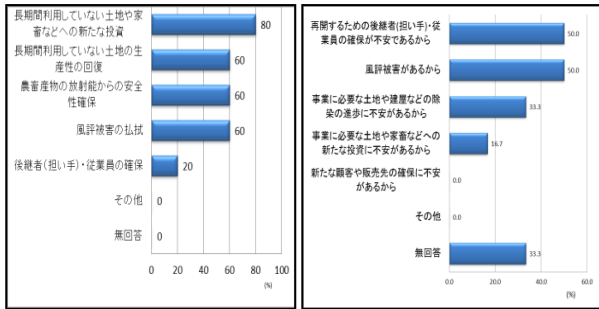
設問 4-2 によると、戻りたいと考えている人が求めている行政の支援として、「飯館村からの継続的な情報提供」と「住宅再建・修繕の支援」と「商店の再開の支援」と「継続的な健康管理の支援」が多い。



【図-13】 設問 4-3

設問 4-3 によると、「再開したい」と「まだ判断できない」の割合が高い。それに比べて、「再開するつもりはない」の割合は

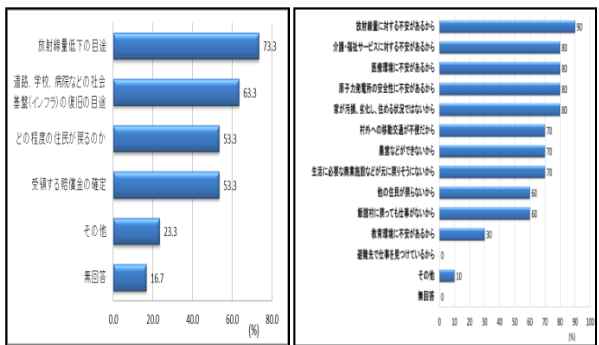
低い。このことから全体的に、帰村後に村で農業をするという希望を捨てていない人が少なくないことがわかる。



【図-14】設問 4-4

【図-15】設問 4-5

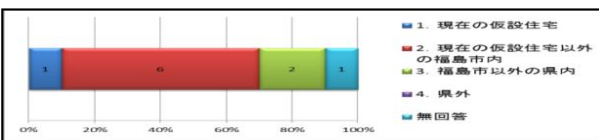
設問 4-4 によると、村内で農業を再開する際の課題として最も多かったのは、「長期間利用していない土地や家畜などへの新たな投資」である。設問 4-5 によると、村内で農業の再開を判断できない、または、再開するつもりはない理由としては、「再開するための後継者（担い手）・従業員の確保が不安であるから」と「風評被害があるから」が高い回答率であった。しかし、設問 4-4 と設問 4-5 は、そもそも回答者の母数が少ないことを考えると、実際には各項目間の差はそれほどない可能性もある。



【図-16】設問 4-6

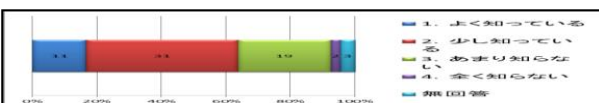
【図-17】設問 4-7

設問 4-6 によると、帰村に判断する上で必要な情報としては、「放射線量の低下の目的」が最も高い割合を示している。また、設問 4-7 によると、村に戻らないと決めた理由としては、「放射線量に対する不安があるから」が最も高い割合を示した。設問 4-6 も設問 4-7 も、放射線量に関する項目が高い割合であることがわかる。



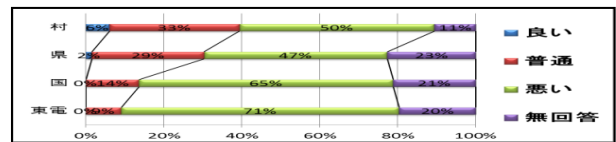
【図-18】設問 4-8

設問 4-8 によると、今後の居住希望地としては、「現在の仮設住宅以外の福島市内」が 60%と高い割合を示している。松川第一・第二仮設住宅に避難している村民は今の仮設住宅よりも住みやすい環境を福島市内で求めている人が多いと考えられる。



【図-19】設問 5-1

設問 5-1 によると、村の復興計画に関しては「少し知っている」が約半数である。



【図-20】設問 5-2

設問 5-2 によると、村や県、国、東電の取組みに関しては全体的に評価が悪い。特に国や東電に対する評価が悪い。ヒアリング調査では、「東電に質問をする機会が設けられているが、質問したことに対する答えが返ってこない。意見交換が出来ていないので、不満がある。村民の意見が壁でシャットダウンされているようなイメージ。」という人がいた。どんな意見を言っても受け入れてもらえない村民は東電に対して不快感を持っているように思える。国に関しては、除染が遅れていることに対する不満や原発を認めていた政治的責任に対する不満の声が上がっていた。



【図-21】設問 5-3

設問 5-3 によると、村や国が最も力を入れるべき支援は「賠償金の充実」であるという回答が多い。仮設住宅で満足いく暮らしをしていくため、あるいは、仮設住宅から一軒家などに移り住む上で、賠償金の充実が必要であるとの意見が含まれると考えられる。「不明」の多くは、複数回答してしまった人である。「その他」には、「村内に仮設住宅の建設」「帰村後の雇用問題の改善」「分散してしまった世帯に対する支援」などが上がっていた。

5. 結論

仮設住宅での避難生活は苦しい。仮設住宅という狭くて不慣れなところで生活するという、村で生活していた頃とは全く違う環境のもとで、村に帰りたくても帰れない、農業も出来ない、この先いつ村に帰って震災以前のような生活が出来るかわからないといった不安や不満が消えない生活を強いられているのが現状である。

今後は、まず村民の一人一人が少しでも満足できるような避難生活の支援が必要である。また、国は村と協力して除染の遅れを取り戻し、村民が帰還の可能性や時期などについて判断できるようにすることが求められる。さらに、村民が将来的に帰還を選択しても移住を選択しても、きちんとした支援を行えるようにするためには、村民と行政や東電との間で意見交換がしっかりできるような風通しの良い環境づくりも大切であるように思える。

謝辞

アンケート調査とヒアリング調査を実施するにあたり、松川仮設第一住宅の会長さんと管理人さん、松川仮設第二住宅の会長さんと管理人さんには大変お世話になりました。末筆ながら、ここに記して感謝いたします。

参考文献

1) 飯館村 HP 避難関係
<http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/?p=242>
 2) 環境省 除染情報サイト 除染特別地域の概要・進歩
<http://josen.env.go.jp/area/details/iitate.html>
 3) 復興庁・福島県・飯館村 (2013) 「飯館村住民意向調査 調査結果 (速報版)」 (平成25年2月5日公表)
http://www.reconstruction.go.jp/topics/20130205_ikouchousa_sokuho_ubetenniitate.pdf